

平和の共同アピール

2023年5月、私たち医療にたずさわる4団体は、ロシアのウクライナ侵略で多くの犠牲者が出ていることに胸を痛め、日本が戦争への道にすすんではならないと共同で平和アピールを発表しました。パレスチナで罪のない多くの子どもたちが殺されている今、このアピールを広く発信します。



えこめま友の会
渡辺 富子

家族とはぐれたのか

泣きながら 避難の道を 一人歩く少年

地下室の中で「死にたくない」と

大粒の涙を流していた少年

あの子どもたちは

今、どうしているのでしょうか？

一年半前、

ウクライナでの戦争が起きたとき、

砲弾がビルや高層住宅を

破壊する様を見て

わが目を疑いました

「これが戦争なの!？」

「生きているうちにこんな光景を目にするとは」と。

.....中略

しかし、今、

日本政府はアメリカの求めに応じ

「専守防衛」の建前をかなぐり捨て

無謀な戦争の道へ国民を引きずり込もうとして

います。

「台湾有事」を口実に、沖縄へのミサイル配備

を進めています。

何よりもいのちを守ることを求める私たちは

こうした「戦争」につながるすべてを拒否します。

「戦争はいやだ」

「武器はすてよ」

「43兆円はいのち、くらしのためにこそ」と

声をあげましょう。

今を「あらたな戦前」としないために

2023年5月

社会医療法人社団健友会

東京医療問題研究所

中野・杉並健康友の会

健友会労働組合

2023年作品展 参加者で作ったゴッホの『ひまわり』貼り絵

暮らしと命が 大切にされる年に

社会医療法人社団健友会理事長 伊藤 浩一

あけましておめでとうございます。

気候危機、パンデミック、人口減少、地政学的危機、

AI技術の急速な発展、ビッグテックによる富の独占、民

主主義の危機、そうした時代の中で、昨年は本邦の人権

状況の危うさを問うことがらが、いくつも報道されました。

医療者として友の会の皆さんとともに、暮らしと命が大切

にされるような進展がある年にしたいと思えます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

龍のごとく 前向きに

中野・杉並健康友の会会長 植木 紘二

新年おめでとうございませう。

私たち友の会は、コロナに負けず活動の幅を広げ、会員・

仲間ふやしもみんなの協力で前進させてきました。また、

杉並で実現した高齢者の補聴器助成を、中野区でも多く

の方々の協力で実現することができました。

今年も、友の会は、健友会と心ひとつに龍のごとく前向

きに進みたいと考えています。中野ではじめての民主診療所

働く人の診療所ができて70年余、法人合同によって健友

会が誕生して24年、地域にねざした医療、住み続けられる

まちづくりをいっそう推進する年に!!



シリーズ 「健友」 20周年

シリーズ9回目を迎え、今回は共立診療所建設、中野勤労者医療協会と杉並の健友会との法人合同の経過を紹介します。

さらなる発展を 目指して法人合同

中野共立診療所の建設

1996年中野勤医協は、中野共立病院から40mほどの距離にある旧北海道拓殖銀行職員寮の跡地を取得、診療所の建設に乗り出しました。前号で記したように、中野共立病院は建て増しを繰り返しており、古い部分は



共立診療所1階にできた友の会コーナー

時を知る元 職員の加藤 秀大さんは 「友の会」の事務所を診療所の1階に置いたのは友の会だったのでの願いだった」と、振り返ります。 診療所のオープニング祝賀会は、



築30年を超えていました。老朽化もさることながら、地域の医療要求にこたえるため、中野共立病院で行っていた外来機能を診療所に移行する必要がありました。 診療所の建設にあたっては、患者や友の会の要望や意見が反映されるよう、建設委員会には友の会も参加しました。幅広いアンケートを実施し、設置してほしい診療科をはじめ建物の色に至るまで意見を募り、地域一体で建設を進めました。当

中野サンプラザにて700人規模で盛大に行われました。

削減することを余儀なくされた。当直と夜間診療のために大学病院に医師を依頼、看護師も配置していたため、このことでの赤字が累積し、ながく西荻の地域を支えてきたベッドをついに閉鎖せざるを得ませんでした。杉並健

法人合同当時を振り返る

合同当時の健友会専務 入江 徹

私は1995年に西荻窪診療所の事務長として赴任しました。そのとき診療所は、石垣先生という非常に慕われていた先生が亡くなられ、16床あった有床診療所を3床に削減することを余儀なくされた。当直と夜間診療のために大学病院に医師を依頼、看護師も配置していたため、このことでの赤字が累積し、ながく西荻の地域を支えてきたベッドをついに閉鎖せざるを得ませんでした。杉並健



2000年4月発行の西荻窪診療所の記念誌より

健友会と中野勤協の 法人合同

1999年4月に中野勤医協が解散、杉並の健友会と法人合同しました。病院建設の構想は合同以前からあり、当時勤医協は診療所の建て替えや中野共立病院の建て増しで資金が厳しく、杉並健友会は診療所しかなかったため、法人内に大きな入

め、余裕のある健友会に法人をまとめ、吸収ではなく合同という形で、中野区と杉並区にまたがる「医療法人社団健友会」が誕生しました。このことに



1997年6月 中野共立病院附属診療所の開所式 (右から菊島所長、飯島友の会会長、中山婦長)

院施設を望んでいました。より、新病院建設への機運がいっそう高まりました。

め友の会や地域の方にも理解してもらうことに心を砕きました。杉並健友会には若手医師は多いが資金不足で病院の老朽化の問題もありました。職員・地域・友の会全体で割って話せる関係がありましたので、比較的スムーズに進んだと思います。

2回目の健康チェック

やまと健康友の会

10月11日、2回目の健康チェックを開催、21人が参加しました。チェック項目は前回と同じ握力、血圧、血管年齢、骨密度。ニューズでお知らせしたほかに、役員が1500枚のチラシを地域に配布。この日2人が入会しました。(石田)



災害時の薬の管理

桃井健康友の会

11月22日に待合室で、災害時の薬の管理や防災対策をテーマに講習会を開催。コロナ禍以来久しぶりに開催することができました。講師にオノダ薬局の薬剤師池田さんを招き9人が参加。防災の豆知識を学びました。(徳永)



海上クルーズで 米軍横須賀基地

桜山健康友の会

写っているのは、米軍と共同使用する海上自衛艦です。製造から

30年の老朽艦。新型イージス艦が必要で、なんと二艦が2千億円以上！そんな無駄遣いはやめて国民のくらしに回せと強く思うのでした。(杉本)



歩く会in昭和記念公園

かわしま健康友の会

11月15日、久々の歩く会を開催しました。今回の目的地は立川の昭和記念公園。あいにくの曇り空でしたが、寒さに負けず一万歩を達成！ランチタイムには紅葉の下で生ビールも楽しみました。(窪田)



健康講座開催

天沼健康友の会

11月15日の健康講座では「訪問看護」について学びました。内孝子看護師を迎え10人弱の参加者でした。天沼地域にチラシを配布し、

シリーズ 住みなれた自宅で

信頼できる医師のもとで

中野共立病院 在宅医療課 義村 典子

20年来の主治医

中野共立病院に外科病棟があったころに手術を受けた方が、以後も長年共立診療所でその医師の外來に通院していました。ここ数年で認知症が進み、急激に足の筋力も弱まり、当院の救急外來を受診しました。そこで自宅での様子、今後どう生活していきたいかを息子さんを含め傾聴し、在宅診療の説明を行いました。外來の主治医と相談し、引き続き同じ医師の診療で治療を継続していくことで、本人も息子さんも安心して在宅診療を開始しました。

在宅へ移行しても

中野共立病院が地域にある意味は、長く信頼される医療の提供(通院から在宅へ移行されてからも)です。これからも温かく関わりを持ち、一つひとつの訴えを疎かにせず、問題点を皆で共有しながら解決策を話し合い、連携していきたいと思えます。



看護・介護の現場から 76

精一杯の笑顔で「一期一会」

城西診療所 師長 秋元 優子

明がレトロなため薄暗く、新規の方は躊躇してしまうかもしれません。遠慮せず入っていただくと、患者さんの様々な作品が展示されております。一つひとつにその患者さんの歴史が刻まれています。待合室に飾られているとっても可愛い作品。提供して下さった患者さんが、よく話されていた言葉「二期一会」。今となってはそれが本場に最後の言葉となっていました。



言ってしまうがちでした。が、その方にとっては、これが最後の別れになるかもと常に本気で精いっぱい笑顔で見送りをしてくださっていたこと、作品をみるたびに思い出されます。

作品を見るたびに

訪問診療時、悪天候であったとしても、どんな時でも往診車の前までお見送りに来てくださっていた方。「無理しなくていいですよ」と、つい立ち寄りくださいませ。

レトロな診療所

こんにちは。城西診療所です！開設後、年齢になると74歳。酸いも甘いも乗り越えて参りました。外から見ると照



押しつけない診療を心がけて

桃井診療所 所長 井田 隆

周りに医者が多い環境だったので、自然と医師への道を歩むことに。東京医科歯科大を卒業後、研修医を経て腎臓内科の専門医となりました。大学病院を基盤に各地の病院を出たり入ったり、過疎地の病院勤務

務や単身赴任も経験しました。中野総合病院を定年退職後、以前に代々木病院の手伝いをした縁もあって、共立診療所の外來勤務になりました。その後桃井診療所の常勤となりました。



「とにかく患者さんが話しやすい雰囲気をつくって、何に困っているのかを聞くこと。決して押しつけないこと。一人ひとりに合わせた治療を心がけています」という井田先生のファンは多く、中野総合病院時

あなつぷ & あなつぷ 病院・診療所・友の会

宣伝。新たな顔ぶれもありました。偶数月の第一水曜日、14時からの映画鑑賞も続けています。(谷中)



言語聴覚士による健康講座

西荻健康友の会

10月25日に田中言語聴覚士による「おいしく食べるためのお家でできる嚥下トレーニング」の講座を行い、21人が参加しました。わかりやすい説明と体操で、笑顔・会話が溢れる会になりました。1人が入会しました。(渡邊)



診療所跡地の情報発信

えこ・めま健康友の会

旧診療所は2011年に解体され、跡地は更地になったのち、職員と友の会で植物を育てています。そこで作業をしている「ここはどうなるの?」など聞かれるので『えこ・めまより』で跡地の情報を積極的に掲載するようにしています。(粉川)



総会と健康講座開催

ももその健康友の会

10月18日に「友の会総会&健康講座」を行いました。久々の開催でしたが、20人が参加。健康講座は中根所長が「睡眠」について講演。参加者からは「久しぶりに集まって良かった。また健康講座をやって欲しい」などの感想がありました。(中西)



タンゴ演奏会

中野共立健康友の会

吹き矢サークルの指導者である高橋先生のご縁で、バンドネオン奏者の北村さんとバイオリニストの永野さんに、職員向けのミニコンサートをしていただきました。間近で聞く生音の迫力とレベルの

